

平成16年度厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

入院医療と在宅ケアの連携のあり方に関する調査研究

(H16-長寿-027)

平成16年度 総括研究報告書

主任研究者 池上 直己

平成17(2005)年3月

## 研 究 組 織

主任研究者：池上 直己（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室）

研究協力者：山田 ゆかり（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室）

## 目 次

研究要旨 .....	1
A. 研究目的 .....	1
B. 研究方法 .....	2
C. 研究結果 .....	2
D. 考 察 .....	5
E. 結 論 .....	6
資料編 .....	7

# 厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

## 総括研究報告書

入院医療と在宅ケアの連携のあり方に関する調査研究  
主任研究者 池上直己 慶應義塾大学医学部 教授

### 研究要旨

居宅サービスを利用している高齢者が入院した場合や退院後に居宅サービスを利用する場合の病院と在宅の機関の連携や適切なケア提供方法の確立とマニュアル化に向け、今年度は入退院者の状態像、サービス利用状況のほか、訪問看護師、介護支援専門員などの在宅機関と病棟看護師の連携状況等について調査した。

本調査では、調査対象3施設（病院2、老健1）に調査期間中（3ヵ月間）に入院した全高齢者を対象とし、基本属性や入院前・入院中の状況、退院後の予定、入院前・退院後の訪問看護師・介護支援専門員との連携状況などを調査した。また、入院診療計画、退院療養計画、および入院医療費等を収集した。さらに、入院前、退院後に居宅サービスを利用していた対象者については入退院前後1ヵ月間の状況についても調査した。

調査結果から、入院から在宅に退院する患者の中で、褥瘡がある、カテーテルを使用しているなど訪問看護サービスを利用した方がよいと思われるが、利用していない患者が半数程度存在すること、退院後在宅に戻る患者について、入院中の状態変化を十分に連絡できていない現状があることがわかった。したがって、退院する患者の状態の変化を勘案しながら、どのようなサービスを利用するのが適切かについては、院内の情報が十分に活用されていないことが考えられる。

今後の課題として、フォーカスグループを開催して、患者の状態変化をどのように把握し、それを退院後のサービス利用や退院指導にいかに関活用するか、入院から在宅に向けての連絡方法、用紙や運用の見なおしについて試行・検討が必要である。さらに、今年度使用した「患者調査票」のベースとした MDS・AC（急性期患者の状態を把握するための体系的なアセスメント表、Minimum Data Set - Acute Care）利用の可能性を検討する必要がある。

### A. 研究目的

介護保険制度の導入により、居宅におけるサービスが整備されたものの、居宅サービスを利用している高齢者が入院した場合、あるいは退院後に居宅サービスを利用する場合は、病院と居宅サービス機関の連携が十分になされていないのが現状である。また、入院中の主治医と在宅におけるかかりつけ医の連携を強化することはかねてからの課題である。

そこで本調査研究では、病院と在宅の機関の連携を図る上で、入院医療と在宅における居宅サービスをつなぐ訪問看護師、介護支援専門員に着目し、病棟看護師との連携を強化すると同時に、両者を介して病院と在宅のそれぞれの主治医の連携、および訪問看護師、介護支援専門員を介して他の居宅サービス事業者との連携を円滑に進めるため、要介護者が病院に入院した直後から退院・退所時に向けて適切なケアを提供するための方法を確立し、さらにそれを

マニュアル化して有効性を広く検証することを目的とする。

## B. 研究方法

### (1)調査対象施設

病院と訪問看護との連携が比較的円滑に行われている急性期大病院(施設 1)と、在宅ケアに力を入れている中規模病院(施設 2)、介護老人保健施設(施設 3)、計 3 カ所とした。

### (2)調査期間

平成 16 年 7 月から平成 16 年 11 月のうち 3 カ月間とした。

### (3)調査対象者

調査期間中に当該病棟へ入院する 65 歳以上の患者を調査対象者とした。

### (3)調査方法

#### ①概況調査

調査説明会実施後、病院・施設概況調査を実施し、病床数・病棟種別・入院者数・平均入院日数・入退院患者数・要介護認定者数・入院診療計画および退院療養計画の作成状況等を把握した。

#### ②患者調査等

全対象者ごとに基本属性や入院前の状況、入院中の状況、退院後の予定などを調査し、さらに入院診療計画、退院療養計画、および入院医療費等を収集した。また、入院前または退院後に訪問看護や他の居宅サービスの利用者については、病棟看護師と訪問看護師や介護支援専門員との連携状況を把握した。

### ③入院前調査

入院前に訪問看護サービスを利用していた対象者については入院前の主治医からの指示書および主治医への計画書・報告書、入院前の状況を把握した。また、入院前にその他の介護保険居宅サービスを利用していた対象者については、入院前の状況を把握した。

### ④退院後調査

退院後に訪問看護サービスを利用する対象者については退院後の主治医からの指示書および主治医への計画書・報告書、一般状況を、また退院後にその他の介護保険居宅サービスを利用する対象者については一般状況をそれぞれ把握した。

### ⑤分析の対象

上記各調査から入院・入所前の定常状態、入院 24 時間以内の状態、退院・退所時の各状態を把握し、状態の変化および退院後のサービス利用予定との関係を分析した。また、入院前から退院にかけて施設と居宅事業者との連絡内容を分析した。

#### (倫理面への配慮)

本調査では、個人情報を取り扱うため、調査の実施にあたっては本人に調査協力の同意を得た。また、データについては ID 番号で管理をし、プライバシーの保護には厳重に配慮した。

## C. 研究結果

本調査では以下のように調査票を回収した。

	患者 調査票	入院前 調査票	退院後 調査票
施設 1 (病院)	626	40	36
施設 2 (病院)	158	49	27
施設 3 (老健)	105	8	8
計	889	97	71

なお、施設 1 は都内の約 300 床の急性期病院、施設 2 は約 100 床の中規模病院、施設 3 は 100 床の介護老人保健施設である。

## 1. 対象者の概要

### (1)基本属性

全対象者のうち男性は 44.0%、女性は 52.8%であり、平均年齢は 80.1 歳であった。

### (2)要介護認定者数

全対象者のうち要介護認定を受けていたのは 395 人(44.4%)と約半数を占め、要支援は 42 人 (4.7%)、要介護 1 は 108 人 (12.1%)、要介護 2 は 73 人 (8.2%)、要介護 3 は 58 人 (6.5%)、要介護 4 は 53 人 (6.0%)、要介護 5 は 61 人 (6.9%) となっていた。

また、入院時に「認定なし」であった対象者のうち、退院時に要支援・要介護の認定を受けた者は 14 人 (4.1%) であった。

### (3)介護の状況

家族構成では「子ども等との同居」が 401 人 (45.1%) となっており、高齢者世帯は 264 人 (29.7%)、単身世帯は 130 人 (14.6%) であった。また、入院時において家族介護の可能性について聞いたところ、「期待できる」が 522 人 (58.7%)、「困難である」が 149 人 (16.8%)、「できない」が 174 人 (19.6%) であった。

## 2. 退院者の状況

### (1)退院者の状況

調査の対象となった 889 人のうち、調査期間内に退院となった対象者は 575 人 (64.7%) となっており、退院した患者のうち入院前にサービスを利用していたのは 127 人 (22.1%) であった。一方、調査期間内に退院をしなかった対象者 314 人 (35.3%) のうち、入院前にサービスを利用していたのは 59 (18.8%) であった。

また、退院者のうち要介護認定を受けているのが 40.7%となっており、要介護 1 が 10.6%のほかは、いずれも 5%前後であった。一方、退院しなかった対象者については、認定を受けていたのが 67.2%で、要介護 1 が 15.0%、要介護 2 が 13.4%、要介護 3～5 はいずれも 8%を超えていた。

入院時において家族介護の可能性について聞いたところ、退院者の 68.9%は「期待できる」であるのに対し、退院しなかった対象者では「期待できる」が 40.1%となっており、「できない」が 36.9%であった。

### (2)退院後の予定

調査期間内に退院となった 575 人の退院後の予定については、「在宅で訪問看護サービス(医療保険)を利用」が 8 人(1.4%)、「在宅で訪問看護サービス(介護保険)を利用」が 55 人 (9.6%)、「在宅で訪問看護以外の介護保険居宅サービスを利用」が 44 人 (7.7%) となっており、「在宅で居宅サービスは利用しない」は 350 人 (60.9%) であった。

	件数	割合
調査対象者	889	100.0%
入院中	314	35.3%
退院	575	64.7%
他の病院へ転院	(72)	(12.5%)
介護保険施設へ転所	(21)	(3.7%)
在宅でサービス利用あり	(107)	(18.6%)
訪問看護（医療）	(8)	(1.4%)
訪問看護（介護）	(55)	(9.6%)
他の介護保険居宅サービス	(44)	(7.7%)
在宅で居宅サービス利用なし	(350)	(60.9%)
不明	(25)	(4.3%)

### (3)入院時から退院時までの状況

退院者 575 人の入院前の定常状態、入院 24 時間以内、退院時の 3 時点の状態についてみると、以下のとおりであった。

移動方法については、入院前の定常状態、入院時からみると、退院時には改善がみられる。入院前の定常状態から入院時にはカテーテル使用で悪化がみられ 25.9%となっているが、退院時には 8.0%へと大きく改善している。

移動方法	入院前	入院時	退院時
担送	20.7%	21.7%	9.2%
護送	21.2%	26.4%	18.6%
独歩	55.3%	47.5%	64.2%

※「有り」と回答した割合

	入院前	入院時	退院時
問題行動	7.0%	9.4%	7.3%
尿失禁	16.2%	16.2%	13.6%
褥瘡	3.3%	3.0%	2.4%
せん妄	4.9%	6.8%	5.0%
カテーテル使用	16.0%	25.9%	8.0%
身体抑制	3.1%	5.7%	2.4%

### 3. 居宅サービス利用者

入院・入所前に訪問看護またはその他の介護保険サービスを利用していた対象者は 186 人で全対象者 889 人のうち 20.9%であった。施設別にみると、施設 1 では 20.6%、施設 2 では 31.0%、施設 3 では 7.6%であった。

また、退院・退所後に訪問看護またはその他の介護保険サービスを利用していた対象者は 107 人で全対象者 889 人の 12.0%であった。施設別にみると、施設 1 では 12.9%、施設 2 では 12.7%、施設 3 では 5.7%であった。

退院後に訪問看護または他の介護保険居宅サービスを利用した対象者 107 人の入院前の定常状態、入院 24 時間以内、退院時の 3 時点の状態についてみると、以下のとおりであった。

移動方法については、入院前の定常状態、入院時からみると、退院時には改善がみられる。入院前の定常状態から入院時には問題行動、せん妄、カテーテル使用で悪化しており、身体抑制を受けた患者も増加している。退院時にはカテーテル使用、身体抑制が大きく改善している。

移動方法	入院前	入院時	退院時
担送	31.8%	29.0%	7.48%
護送	32.7%	38.3%	43.9%
独歩	31.8%	28.0%	45.8%

※「有り」と回答した割合

	入院前	入院時	退院時
問題行動	9.3%	15.0%	11.2%
尿失禁	26.2%	21.5%	22.4%
褥瘡	4.7%	4.7%	2.8%
せん妄	6.5%	8.4%	6.5%
カテーテル使用	26.2%	36.4%	11.2%
身体抑制	3.7%	9.4%	2.8%

在宅への退院者 457 人のうち、退院時に褥瘡があった者は 7 人であったが、そのうちサービス利用者は 3 人 (42.9%)、サービス未利用者は 4 人 (57.1%) であった。また、退院時にカテーテル使用のあった者は 23 人であったが、そのうちサービス利用者は 12 人 (52.2%)、サービス未利用者は 11 人 (47.8%) であった。また、褥瘡があるかカテーテルを使用していてサービス未利用者は 14 人 (50.0%) であった。

なお、入院・入所前に訪問看護またはその他の介護保険サービスを利用していた対象者 186 人のうち、退院・退所後にもサービスを利用した対象者は 80 人 (43.0%) であり、退院・退所後にサービスを利用しなかった対象者は 39 人 (21.0%) であった。また、入院・入所前にサービスを利用していなかった 703 人のうち退院・退所後にサービスを利用した対象者は 26 人 (3.7%) であった。

#### 4. 連絡・相談状況

入院前から退院時にかけての病院・施設と居宅との連絡・相談状況についてみると、入院前または退院後にサービスを利用していた者で連絡・相談等があった対象者は全体の 17.3% であった。平均回数は全体で 2.3 回となっており、施設 1 では 2.9 回、施設 2 では 3.1 回、施設 3 では 1.8 回であった。

施設・病院側からの連絡をする職種としては、MSW が一人当たり平均 1.0 回、医師は 0.7 回、在宅からの連絡をする職種としては訪問看護師は 0.3 回であった。一方、施設・病院側で連絡を受ける職種としては、医師が 0.7 回、MSW が 0.5 回、在宅で連絡を受ける職種としては介護支援専門員

が 0.7 回であった。

また、連絡・相談内容としては、入院の連絡が全体の 35.2%、次いで退院の連絡が 26.0%、状態等の連絡が 9.8% であった。

#### 5. 医療費調査

施設 2 についてのみ実施となったが、医療費調査から調査期間中の 1 日あたり医療費をみると、「2 万円以上 3 万円未満」が全体の 56.3% を占め、「2 万円未満」は 21.5% であった。平均金額は 27,000 円であった。

#### D. 考察

在宅に退院した患者のうち、訪問看護利用者（医療または介護保険）は全体の 11.0% であった。

退院時の褥瘡やカテーテルの使用がある者の中で退院後にサービスを利用していない患者も全体の半数程度であることから、医療面における支援やケアを必要とすると推測されながら、訪問看護サービスの需要として顕在化していないケースもあることがうかがえる。さらに訪問看護は経過観察を行ううえでの役割も重要であることから、月 1～2 回程度の利用でも組み入れることを検討すべき患者が存在することも想定される。

病院と在宅の連携事項をみると、入退院に関することがほとんどで、患者の状態についての情報のやりとりは 10% 以下にとどまっている。訪問看護を利用する際には、病院の医師からの指示書、あるいは病院から開業医への引継ぎ後に開業医から指示書が出されることになるが、入院中の状態



変化について生活上の留意点が勘案されているかは疑問が残る。

## E. 結論

以上から、初年度の結論として次の3点がいえる。

- ①入院から在宅に退院する患者の中で、訪問看護サービスを利用した方がよいと思われるが、利用していない患者が半数程度存在すると考えられる。
- ②退院後在宅に戻る患者について、入院中の状態変化を十分に連絡できていない現状があることがわかった。
- ③したがって、退院する患者の状態の変化を勘案しながら、どのようなサービスを利用するのが適切かについては、院内の情報が十分に活用されていないと考えられる。

以上の結論を踏まえると、来年度の課題は、以下のように整理される。

- ①患者の状態変化については、入院前、入院から24時間以内、退院時の3時点で把握したが、何を、どのようなタイミングで、どのような方法で把握すべきか、それを退院後のサービス利用や退院指導にどのように活用すべきか検討する。
- ②そのため、フォーカスグループを開催し、患者の状態を体系的にとらえたうえでどのように活用するかを検討するとともに、入院から在宅に向けての連絡方法について、用紙や運用を見なおし、試行的に活用する。

- ③さらに、今年度使用した「患者調査票」のベースとしたMDS-AC(急性期患者の状態を把握するための体系的なアセスメント表、Minimum Data Set - Acute Care)を利用する可能性を検討する。

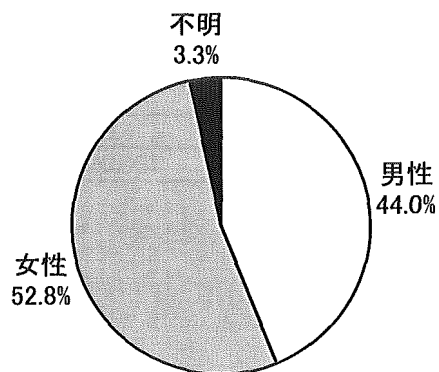
# 資 料 編

# 患者調査票集計結果

## A. 基本情報

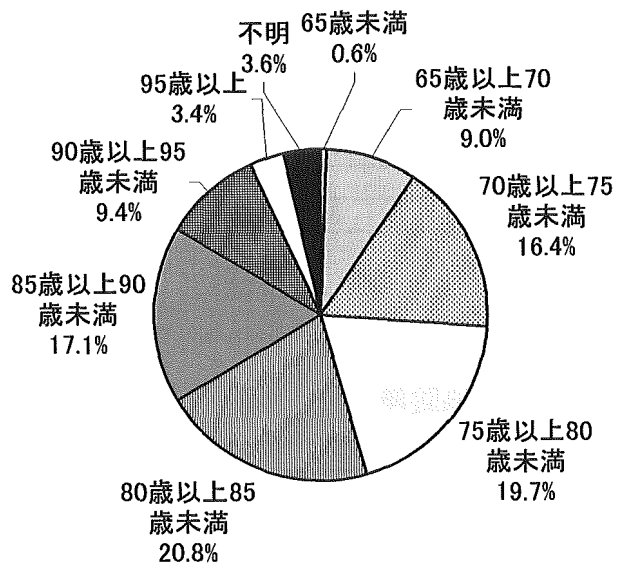
### (1) 性別

	件数	割合
男性	391	44.0%
女性	469	52.8%
不明	29	3.3%
計	889	100.0%



### (2) 年齢

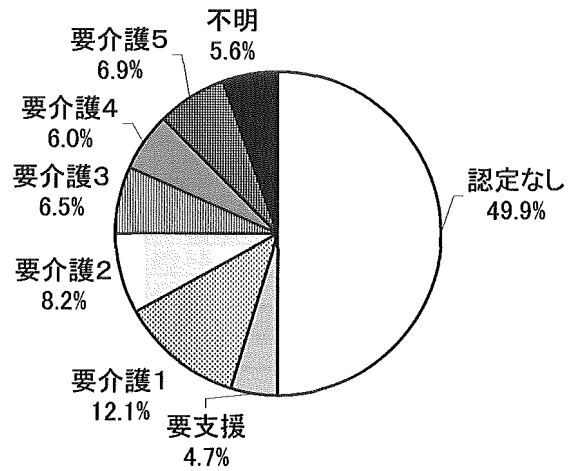
	件数	割合
65歳未満	5	0.6%
65歳以上70歳未満	80	9.0%
70歳以上75歳未満	146	16.4%
75歳以上80歳未満	175	19.7%
80歳以上85歳未満	185	20.8%
85歳以上90歳未満	152	17.1%
90歳以上95歳未満	84	9.4%
95歳以上	30	3.4%
不明	32	3.6%
計	889	100.0%



### (3) 要介護度

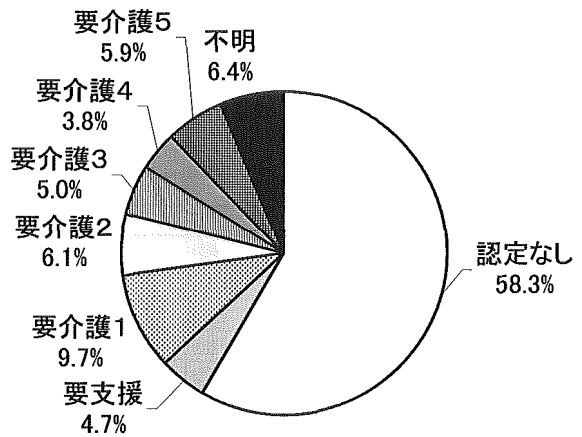
#### ①入院時

	件数	割合
認定なし	444	49.9%
要支援	42	4.7%
要介護1	108	12.1%
要介護2	73	8.2%
要介護3	58	6.5%
要介護4	53	6.0%
要介護5	61	6.9%
不明	50	5.6%
計	889	100.0%



#### ②退院時

	件数	割合
認定なし	335	58.3%
要支援	27	4.7%
要介護1	56	9.7%
要介護2	35	6.1%
要介護3	29	5.0%
要介護4	22	3.8%
要介護5	34	5.9%
不明	37	6.4%
計	575	100.0%

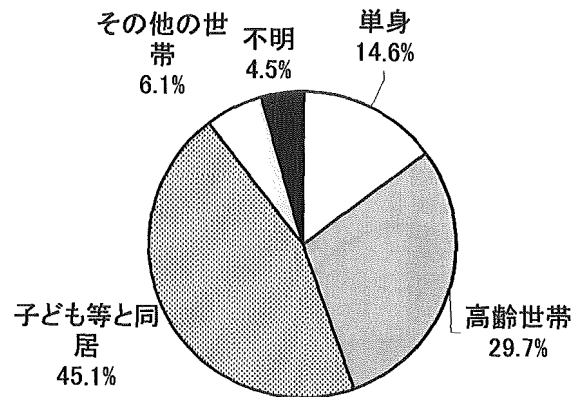


#### ③入院時と退院時

		退 院 時								計
		認定なし	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	不明	
入 院 前	認定なし	316	2	4	3	2	1	2	11	341
		92.7%	0.6%	1.2%	0.9%	0.6%	0.3%	0.6%	3.2%	100.0%
	要支援	3	24	0	1	0	0	0	3	31
		9.7%	77.4%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	9.7%	100.0%
	要介護1	5	1	51	0	1	0	0	3	61
		8.2%	1.6%	83.6%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	4.9%	100.0%
	要介護2	0	0	0	28	0	0	0	3	31
		0.0%	0.0%	0.0%	90.3%	0.0%	0.0%	0.0%	9.7%	100.0%
	要介護3	1	0	1	1	26	1	1	0	31
		3.2%	0.0%	3.2%	3.2%	83.9%	3.2%	3.2%	0.0%	100.0%
要介護4	0	0	0	2	0	20	0	3	25	
	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%	80.0%	0.0%	12.0%	100.0%	
要介護5	0	0	0	0	0	0	29	5	34	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	85.3%	14.7%	100.0%	
不明	10	0	0	0	0	0	2	9	21	
	47.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	42.9%	100.0%	
計	335	27	56	35	29	22	34	37	575	
	58.3%	4.7%	9.7%	6.1%	5.0%	3.8%	5.9%	6.4%	100.0%	

#### (4) 世帯構成

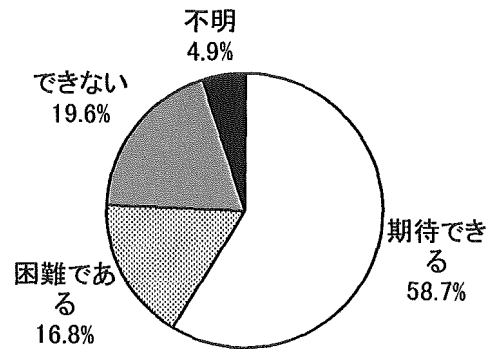
	件数	割合
単身	130	14.6%
高齢世帯	264	29.7%
子ども等と同居	401	45.1%
その他の世帯	54	6.1%
不明	40	4.5%
計	889	100.0%



#### (5) 家族による介護

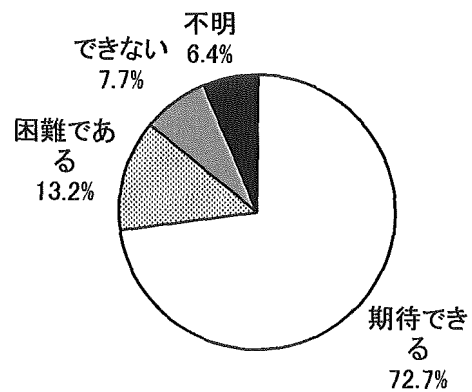
##### ①入院時

	件数	割合
期待できる	522	58.7%
困難である	149	16.8%
できない	174	19.6%
不明	44	4.9%
計	889	100.0%



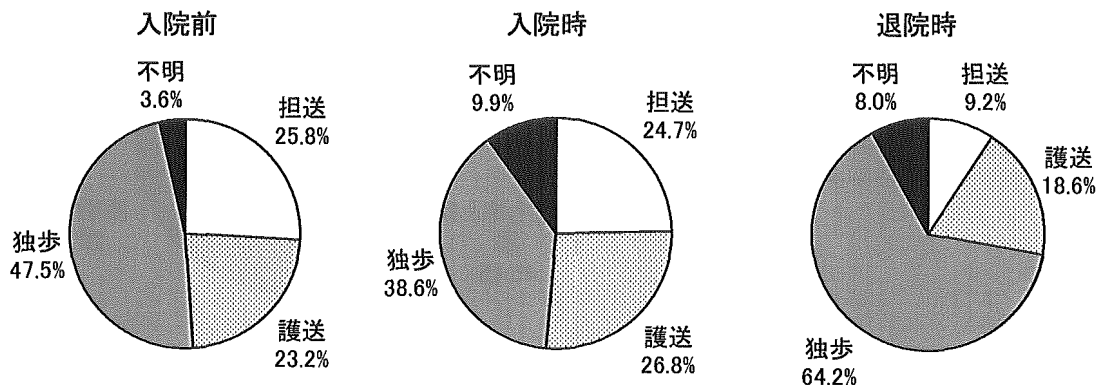
##### ②退院時

	件数	割合
期待できる	418	72.7%
困難である	76	13.2%
できない	44	7.7%
不明	37	6.4%
計	575	100.0%

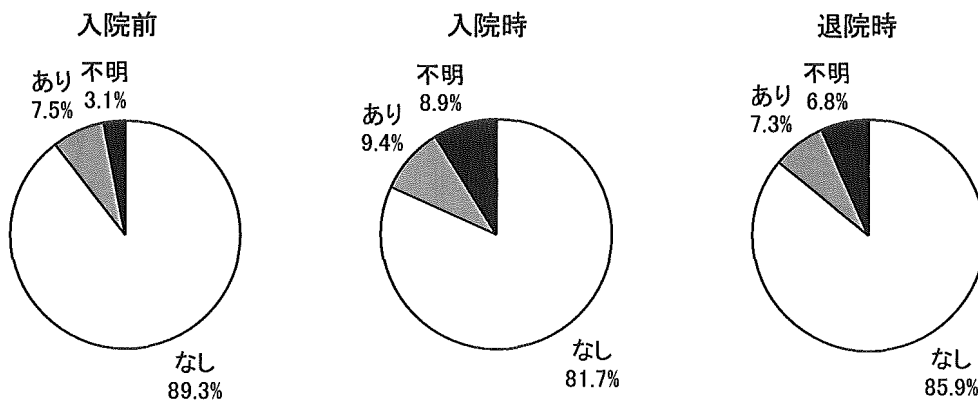


B. 入院前から退院時までの状況（入院前の定常状態・入院24時間以内・退院時）

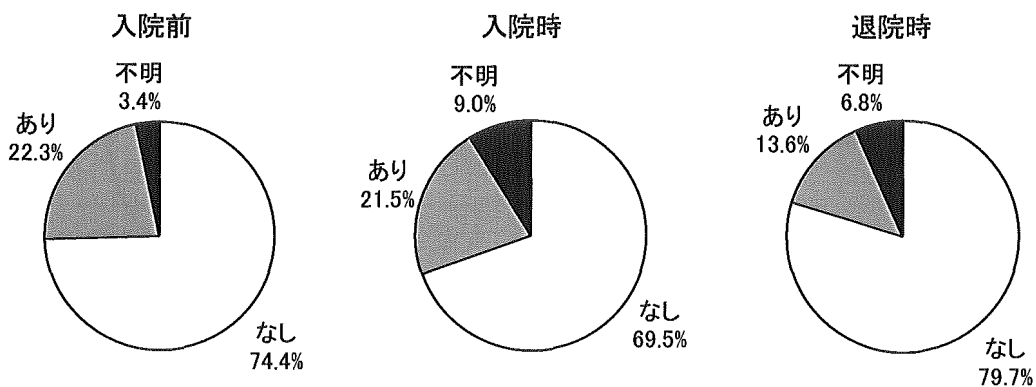
B 1. 移動方法



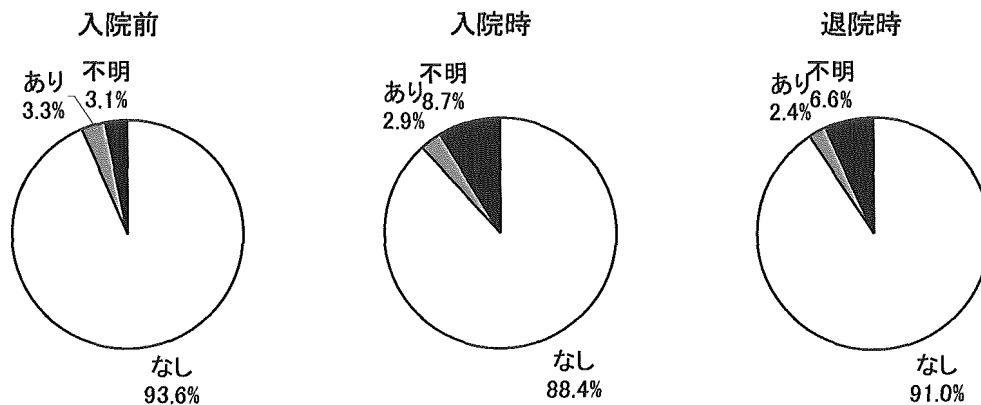
B 2. 問題行動の有無



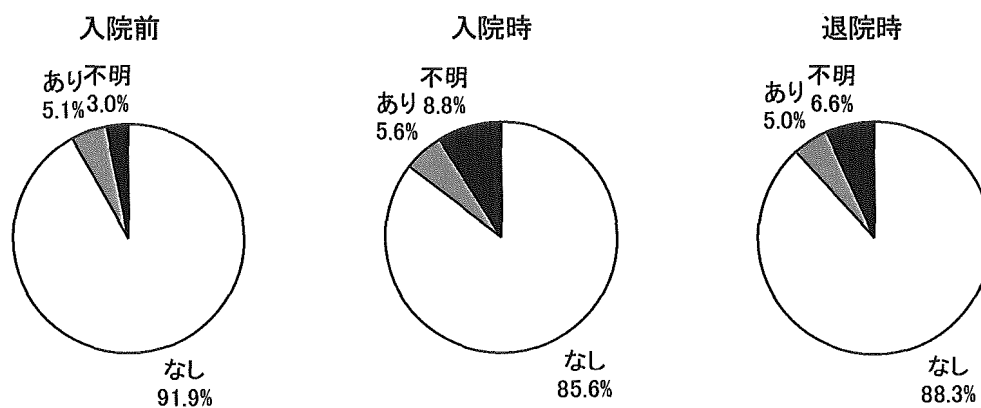
B 3. 尿失禁の有無



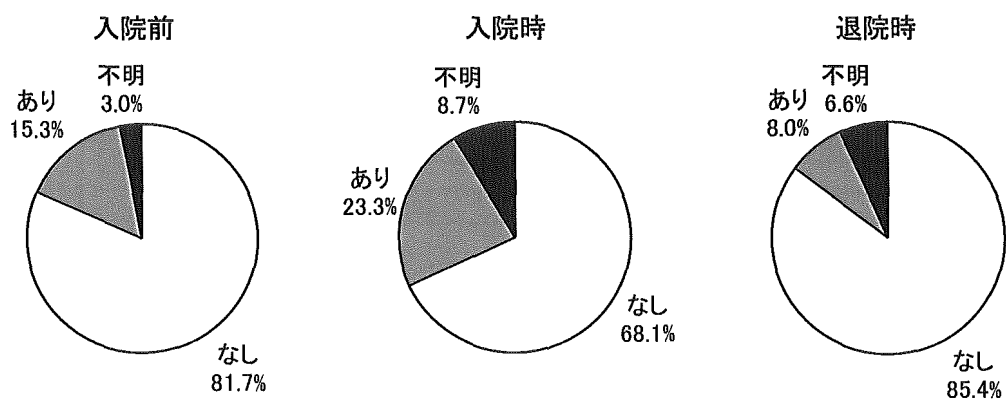
#### B 4. 褥瘡の有無



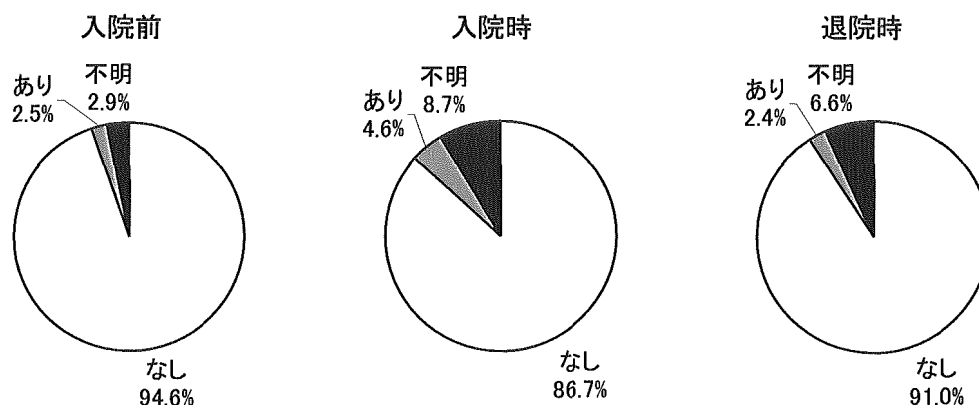
#### B 5. せん妄の有無



#### B 6. カテーテルの有無



## B 7. 身体抑制



## C. 入院中の状況

	転倒の有無		肺炎の有無		尿路感染の有無	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
なし	561	63.1%	552	62.1%	573	64.5%
あり	30	3.4%	39	4.4%	16	1.8%
不明	298	33.5%	298	33.5%	300	33.7%
計	889	100.0%	889	100.0%	889	100.0%

## D. 退院後の予定

	件数	割合
他の病院へ転院	72	12.5%
介護保険施設へ転所(介護療養型医療施設を含む)	21	3.7%
在宅で訪問看護サービス(医療保険)を利用	8	1.4%
在宅で訪問看護サービス(介護保険)を利用	55	9.6%
在宅で訪問看護以外の介護保険居宅サービスを利用	44	7.7%
在宅で居宅サービスは利用しない	350	60.9%
不明	25	4.3%
計	575	100.0%

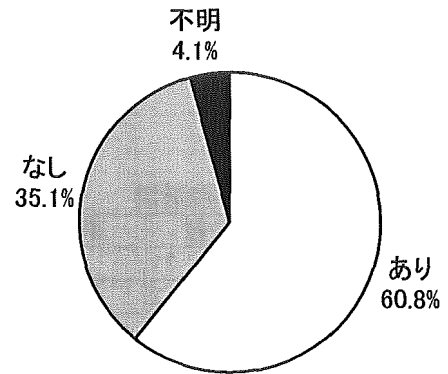


# 入院前調査集計結果

## 1. 入院前1ヵ月間の医療・介護の状況

### (1) 外来受診の有無

	件数	割合
あり	59	60.8%
なし	34	35.1%
不明	4	4.1%
計	97	100.0%



#### ①病院への通院日数

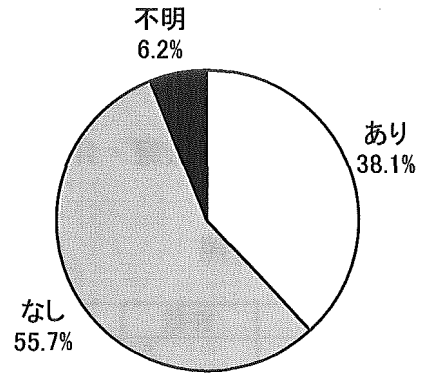
	件数	割合
0日	3	5.1%
1日	28	47.5%
2日	12	20.3%
3~4日	7	11.9%
5~9日	3	5.1%
10~14日	0	0.0%
15~19日	1	1.7%
20日以上	1	1.7%
不明	4	6.8%
計	59	100.0%

#### ②診療所への通院日数

	件数	割合
0日	42	71.2%
1日	2	3.4%
2日	1	1.7%
3~4日	1	1.7%
5~9日	0	0.0%
10~14日	0	0.0%
15~19日	0	0.0%
20日以上	1	1.7%
不明	12	20.3%
計	59	100.0%

(2) 在宅医療の有無

	件数	割合
あり	37	38.1%
なし	54	55.7%
不明	6	6.2%
計	97	100.0%



①医療保険による訪問看護

	件数	割合
0日	21	56.8%
1日	2	5.4%
2日	1	2.7%
3~4日	2	5.4%
5~9日	3	8.1%
10~14日	2	5.4%
15~19日	3	8.1%
20日以上	3	8.1%
不明	0	0.0%
計	37	100.0%

②往診

	件数	割合
0日	25	67.6%
1日	2	5.4%
2日	1	2.7%
3~4日	2	5.4%
5~9日	0	0.0%
10~14日	0	0.0%
15~19日	0	0.0%
20日以上	0	0.0%
不明	7	18.9%
計	37	100.0%

③訪問診療

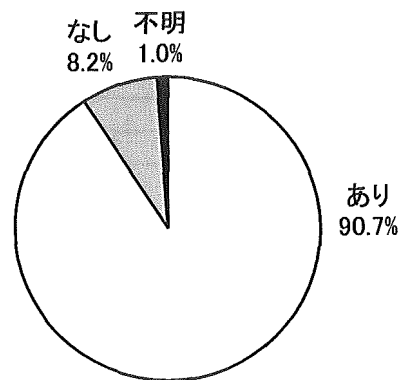
	件数	割合
0日	9	24.3%
1日	13	35.1%
2日	10	27.0%
3~4日	1	2.7%
5~9日	0	0.0%
10~14日	0	0.0%
15~19日	0	0.0%
20日以上	0	0.0%
不明	4	10.8%
計	37	100.0%

③その他

	件数	割合
なし	28	75.7%
不明	9	24.3%
計	37	100.0%

### (3) 介護給付の有無

	件数	割合
あり	88	90.7%
なし	8	8.2%
不明	1	1.0%
計	97	100.0%



#### ①サービス種類

	件数	割合
訪問介護	44	50.0%
訪問入浴	11	12.5%
訪問看護	50	56.8%
訪問リハ	10	11.4%
通所介護	6	6.8%
通所リハ	16	18.2%
福祉用具	37	42.0%
短期入所	12	13.6%
老健	1	1.1%
計	88	100.0%

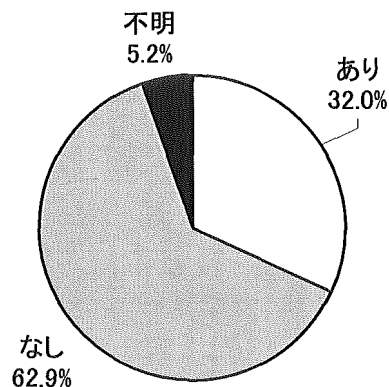
#### ②介護給付費

	件数	割合
5千円未満	8	9.1%
5千円以上1万円未満	8	9.1%
1万円以上5万円以上	26	29.5%
5万円以上10万円未満	10	11.4%
10万円以上20万円未満	15	17.0%
20万円以上30万円未満	8	9.1%
30万円以上	3	3.4%
不明	10	11.4%
計	88	100.0%

## 2. 過去1年間の医療の状況

### (1) 救急外来受診の有無

	件数	割合
あり	31	32.0%
なし	61	62.9%
不明	5	5.2%
計	97	100.0%

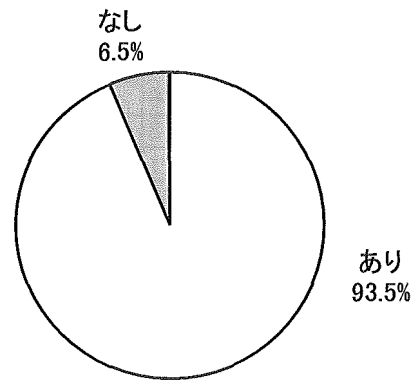


#### 救急外来受診件数

	件数	割合
1回	15	48.4%
2回	8	25.8%
3回	1	3.2%
4回	4	12.9%
不明	3	9.7%
計	31	100.0%

(2) 入院の有無

	件数	割合
あり	29	93.5%
なし	2	6.5%
計	31	100.0%



①入院回数

	件数	割合
1回	10	32.3%
2回	11	35.5%
3回	4	12.9%
4回	3	9.7%
不明	3	9.7%
計	31	100.0%

②同一傷病による入院の有無

	件数	割合
あり	14	45.2%
なし	13	41.9%
不明	4	12.9%
計	31	100.0%

②延べ入院期間

	件数	割合
10日未満	1	3.2%
10日以上20日未満	2	6.5%
20日以上30日未満	9	29.0%
30日以上60日未満	5	16.1%
60日以上90日未満	5	16.1%
90日以上120日未満	3	9.7%
120日以上	1	3.2%
不明	5	16.1%
計	31	100.0%